

立命館大学建設会

発行所
立命館大学建設会事務局
〒525-8577
滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学理工学部
都市システム系事務室内
令和2年8月

第34号

会長挨拶

建設会会長

中谷 恵剛

昭和四十八年卒



2020年7月8日
瀬田川洗堰全開放流中

平成三十年(二〇一八年)秋に会長に就任いたしました中谷です。早二年近くが過ぎましたが、この建設会会報誌が会員の皆様のお手元に届く頃、社会が新型コロナウイルスの影響を受け、どのような状況になっているのか非常に気になる場所です。

ご支援に厚くお礼申し上げます。また、各支部や学生部会、学系の先生方に於かれましてはそれぞれのお立場で、本会の活動の活性化にご尽力いただいておりますことに深く敬意を表する次第でございます。

さて、令和二年となり、さあ東京オリンピックの年だ、その先には大阪万博だと盛り上がり始めたところにとんでもない災いが降りかかってきました。

昔のスペイン風邪などの例が紹介されますが、医学は進歩しているものだと思います。ウイルスも大昔から共存してきているのに変異(というのでしょうか)して予防や的確な治療の術が限られていることで不安感がとても強くなり、目に見えぬ感染がいつそ不安をかき立てる状況になって

います。この原稿は七月初旬に書いていますが、相変わらず感染の報道が続いており、一旦大規模な自粛が解かれたところでも決して気を緩めることはできません。とはいえ、テレワークやWeb会議などの利用は一定進んだのでしようし、新しい生活スタイルに慣れるというか、見直していくというのか変わらざるを得ないでしょう。

それがつけても、マスクに代表される物品の調達に脆弱な産業・流通構造を改めて認識することになりました。私の身の回りでも建設資材の流通に滞りが生じたこともあり、否が応でも世界と繋がっていることを見せつけられました。

「居安思危」「思則有備」「有備無患」備えには限りがないですが、建設会会員の皆様の益々のご活躍を祈念しつつ、情報交換・共有の機会、先輩・後輩・学生・教員・学園を結ぶネットワークとしてわが立命館大学建設会活動の充実を図るため、一層のご理解ご協力を頂きますようお願い申し上げます。なお、昨今の状況に鑑み、恒例の総会・懇親会は一年延期することを役員会で決定いたしました。これに関連し会則の一部改正についてもお知らせいたしますのでご理解いただきますようお願い申し上げます。

大学・学系の近況について

都市システム系 学系長

近本 智行



二〇二〇年度、学系長を拝命しております建築都市デザイン学科近本です。建設会会員の皆様におかれましては、日頃より都市システム系の教学・同窓会活動にご支援・ご協力を頂いておりますこと、心よりお礼申し上げます。

二〇二〇年は本学にとっても重要な年です。新しい時代を担う若者を育てるため、西園寺公望が私塾「立命館」を創始して一五〇年、また文部大臣時代の西園寺の秘書であった中川小十郎が、その意志を引き継ぎ立命館大学の前身となる「私立京都法政学校」を創立して二〇二〇年という年です。その多くの記念行事も来年へ延期されてお

りませんが、建設会会員の皆様にもご助力賜りますようお願い申し上げます。毎年、当方の研究室では修士を修了する学生と共に、この創立の地と広小路学舎跡(いずれも石碑が立てられています)を巡った後に、修了のお祝いを実施します。六年間立命館大学大学院で過ごしても、この場所のことを知らない学生ばかりですが、これから社会にでようとするタイミングで、立命館の一員としての意識を少しでも高くできれば、と思っております。

立命館では新型コロナウイルス対策の法人危機対策本部が設置され、学園一丸となった対策が進められています。二〇一九年度は卒業式が執り行われず、また二〇二〇年度入学の学生の皆さんは入学式も中止となり不安な中で大学生活のスタートとなりました。

一方、今年度、環境都市工学科では特任助教として四井(よついで)早紀先生が着任されました。四井先生は立命館大学出身。京都大学で博士号取得、自然災害リスクアナリストとしての勤務経験やケンブリッジ大学での研究経験をお持ちです。立命館大学において地震や津波などの自然災害の予測な

さてこの二〇二〇年、オリンピックキヤーとして世界中が東京

に注目しているはずでした。しかし新型コロナウイルス感染の拡大で、東京オリンピックは来年に延期です。ご存じの方も多いと思いますが、二〇二〇年は本学にとっても重要な年です。新しい時代を担う若者を育てるため、西園寺公望が私塾「立命館」を創始して一五〇年、また文部大臣時代の西園寺の秘書であった中川小十郎が、その意志を引き継ぎ立命館大学の前身となる「私立京都法政学校」を創立して二〇二〇年という年です。その多くの記念行事も来年へ延期されてお

りませんが、建設会会員の皆様にもご助力賜りますようお願い申し上げます。毎年、当方の研究室では修士を修了する学生と共に、この創立の地と広小路学舎跡(いずれも石碑が立てられています)を巡った後に、修了のお祝いを実施します。六年間立命館大学大学院で過ごしても、この場所のことを知らない学生ばかりですが、これから社会にでようとするタイミングで、立命館の一員としての意識を少しでも高くできれば、と思っております。

立命館では新型コロナウイルス対策の法人危機対策本部が設置され、学園一丸となった対策が進められています。二〇一九年度は卒業式が執り行われず、また二〇二〇年度入学の学生の皆さんは入学式も中止となり不安な中で大学生活のスタートとなりました。

一方、今年度、環境都市工学科では特任助教として四井(よついで)早紀先生が着任されました。四井先生は立命館大学出身。京都大学で博士号取得、自然災害リスクアナリストとしての勤務経験やケンブリッジ大学での研究経験をお持ちです。立命館大学において地震や津波などの自然災害の予測な

会員の声

アフターコロナ時代へ



立命館副会長
兼塚卓也
昭和五十七年卒

建立会副会長の兼塚です。大学を卒業して以来、中央復建コンサルタンツ(株)に勤務しております。この原稿を書いているのは六月ですが、会報が発刊される八月、新型コロナウイルス感染が収束に向かっていることを願うばかりです。

今年の建立会総会は八月二十一日に規模を縮小して開催する予定です。例年百五十名ほどの参加者があり盛大に開催していましたが、今年は総会のみで懇親会はありません。したがって恒例の阿波踊りやマジックショーもできずとも残念です。

コロナが今後の建設業界にどのような影響を及ぼすかについては、少し不安なところがあります。コロナ対応に国の予算が多く使われることなどを考えると、これまでどおりの安定した公共事業予算が組まれるかは不透明です。防災・減災やインフラの老朽化対策など国土強靱化に直結する事業は進められるでしょうが、新たなプロジェクトへの投資が鈍ったり、リニア中央新幹線や北陸新幹線の大阪延伸など長期的な事業のスピードが減速したりといったことがないか心配です。また、インバウンドの極端な減少や、生活様式の変化によりテレワークやオンライン会議が主流となることによる人の



移動の減少などを背景に、交通インフラのあり方が変化する可能性もあるのではないかと思います。しかしこのような環境の変化は、われわれの業界にとって追い風になる可能性もあると考えられます。たとえば①インバウンドに頼らない観光のためのソフト面、ハード面の施策が必要となる、②都市部への人口集中が緩和され、地方創生が進む可能性がある、③コンパクトシティや新しい生活様式にあつた物流方式が必要となる、などの新たな課題への対応が求められ、新しい仕事があるというところと創出されそうなお仕事があります。

身近なところでは、これからはアフター・ウィズコロナでの働き方をいろいろと考えなければなりません。今回のコロナ禍でわが社では、移動を無くすこと、社内の密状態を回避するという目的で約二か月間テレワークを実施しました。その結果テレワークのメリット、デメリットが見え、さらにインターネット回線の容量不足などリモート環境の改善強化が必要なものもわかりました。コロナの第二波や地震などの大きな災害が発生し、社員の出勤がままならない状況となった時のために、そしてテレワークが当たり前の時代に向けての対応を急がなければならぬと思います。

業界の発展のためには優秀な担い手を確保する必要があります。魅力ある業界であり続けなければなりません。

ればなりません。求められる仕事の変化に柔軟に対応できる応用力を養うことや、新しい働き方への意識改革、環境整備などに皆様とともに取り組んでいければと思います。今後ともよろしくお願いいたします。



岐阜県建設会
岩田憲三
昭和五十九年卒

京都マラソン

私が卒業したのは昭和五十九年(一九八四年)三月です。理工学部は衣笠キャンパスです。学生時代は右京区鳴滝に住んでいましたので、大半を京都市内の北西部で過ごしていました。

日本中がランニングブームの真っ只中の平成二十三年、翌二十四年春に第一回京都マラソンが開催されると発表されました。開催案内のコース図を見ると、コースの前半は主に右京区から北区にかけての私が学生時代を過ごしたエリアです。しかも当時土木工学科が入っていた「六号館」(現在は国際関係学部の恒心館のようす)北側の「きぬかけの路」がコースの一部となっていました。二年前からフルマラソンに取組んでいた私としては、「参加するしかない」と言うことで迷わずエントリーしました。

今年まで九回の内、六回当選したのは京都にご縁があるからだと思えます。(今年は大五日前にギックリ腰になり出走出来なかったのは非常に残念でした。)出走した時はいつもそうですが、衣笠キャンパス付近を走る時が一番楽しみかつ快適です。スタートして一時間弱、身体が温まって快適に走れることもあります。仁和寺付近から平野神社付近の間が学生時代毎日のように原付バイクで走っていた所だからでしょう。特に竜安寺から衣笠キャンパス正門の間は、横目で校舎等を見ながら三十数年を懐かしく思い出することが出来るからでしょう。正門前では現役生のチアリーダーが応援も受けられます。



2019年10月25日 岐阜県建設会総会

こういった精神的な高揚感もあつてか私と京都マラソンは相性が良く、三年前の二〇一七年二月の第六回大会では、五十五才で自己ベスト記録が出せました。また、インフルエンザ明けで体調の良くない時等も良い記録でフィニッシュできています。

これからは自分が走り続けている限り、京都マラソンが開催される限り、毎年エントリーしていくつもりです。五十歳以上のOBでランナーの皆さん、懐かしの地を一緒に走ってみませんか。そして、平安神宮前にて和服姿で待つて下さっている同窓の(法学部)門川京都市長と握手しましょう。苦しくも楽しい四十二キロが貴方をお待ちしています。



北海道支部
浅利修一
昭和五十九年卒

北海道支部より

皆様、こんにちは。昨年より北海道支部長を拝命致しました浅利です。建設会北海道支部は、昭和六十二年に創立され諸先輩のご尽力により継続的に活動が行われ、今年七月に第三十回目の総会を開催する予定でした。しかし今年は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響でやむなく延期となりました。北海道は、京都からは遠隔地ですが、比較的多くの土木工学科、環境都市工学科系を卒業された方々がおり、人数は多くはないですが継続的に活動を行っております。

一方で、最近若手の方々への参加が少ない等の課題を抱えています。また近年は、総会と懇親会だけではなく自己啓発的な意識から、立命館大学理工学部の先生方に総会開催時にご講演を頂いております。二〇一七年には都市システム工学科小川圭一教授、二〇一九年には環境都市工学科川崎磨准教授にご講演を頂きました。その節は誠に有難うございました。

卒業から三十六年が経ち会社生活も終盤戦を迎えました。未曾有のウイルス災害に直面し、急激な世界と日本の変化に戸惑う今日この頃です。私事ですが、卒業後地元札幌に本社があるコンクリート製品メーカーに入社し、数回の転勤を経て現在、北海道恵庭市にある技術研究所に勤務しています。平成九年に当時、建設省に関連する財団法人リバーフロント整備センター研究第二部に二年間出向しました。その年に河川法が改正に

なり、所謂多自然型川づくり、魚ののりやすい川づくり、水辺の国勢調査等、自然環境に配慮した川づくりへの取り組みが全国で行われ、先端的な調査・研究に携わる経験を致しました。その後、技術研究所において自然環境に配慮した河川護岸に関する研究開発に携わりました。また二〇一一年の東日本大震災以降は、海岸堤防に関連するコンクリート製品の研究開発・水理実験、近年では頻発する豪雨災害に対応する堤防・護岸製品に関する研究開発、河川の景観・デザインに関する研究開発、新しいコンクリートプレキャスト製品の開発等に取り組んでいます。コンクリート材料の側面からは、コンクリートの耐久性・維持管理等の様々な課題解決にも取り組んでいます。コンクリートは、土木工事において根幹をなす材料であり、その時代の顧客の皆様の要望に合致した製品・工法・材料の研究開発に取り組んできました。

京都建設会より



京都建設会会長
池谷一郎
昭和六十一年卒

最後に、立命館大学建設会の益々の発展と全国の建設会の皆様のご健康とご活躍をお祈り致します。

二〇一九年九月の建設会京都支部総会におきまして、会長を拝命

致しました池谷一郎と申します。若輩者ですが、何卒よろしくお願い申し上げます。

この総会におきましては、従来の立命館大学建設会京都支部から立命館大学京都建設会へと名称変更も決定され、総会を二年に一回から毎年開催することも決定致しました。

名称も新たに、総会を毎年行うことで交流の場を増やし、若い会員の方にもっと積極的に参加して頂き、建設会を今まで以上に活性化させようという狙いもあります。

ただ、本年初めより流行し出した新型コロナウイルスの感染拡大によりまして、本年度総会も中止になり、会議等も行えない状況で、大変歯がゆい状況が続いております。

何とか終息の目途が付き次第、またウィズコロナを考えながら、運営をしていきたいと考えております。

私たちの建設業界においても、様々な影響が出ていることかと存じますが、早期に状況が回復することを願っております。

さて私、会長を拝命致しましたが、昭和六十一年に大学卒業後、建設コンサルタントに就職し、一年半ほどで家業の土地家屋調査士事務所に戻ることにになり、以来現在も土地家屋調査士業を行っておりますとともに平成十年に測量設計業（主に宅地等の開発申請）も行っております。

ゆえに会長といえながら、あまり建設業界のことは詳しくありませんので、土地家屋調査士の現状について少しご紹介させて頂きます。

現在、土地家屋調査士は全国で約一万六千名ほどが活躍しており今年で土地家屋調査士制度制定七十周年を迎えました。土地家屋調査士の業務は主に左記業務です。

- ・不動産の表示に関する登記に
- つき必要な土地・建物の調査
- 測量
- ・不動産の表示に関する登記申請

請手続の代理（土地合筆・分筆登記や建物表題登記等）

・筆界特定手続の代理（お隣さんとの境界で双方の主張が折り合わない場合、法務局へ）

・土地の境界紛争に関するADR（裁判外紛争解決）の代理（弁護士と共同）

以上その他、非常に増加しております。自然災害後の復興及び災害に備えての事前復興にかかせない地籍調査事業にも関わっております。

そして、昨今社会問題になっております、所有者不明土地問題や空き家問題についても専門士業としての知識を活かして行政等と共に取り組んでおります。

また、立命館大学との関わりとして、数年前から政策科学部に近畿の土地家屋調査士で構成します近畿ブロック協議会が特殊講義を行っており、是非、理工学部都市システム系学科でも行えればと考えております。

以上、とりとめのないお話しになりましたが、建設会活動に對しまして微力ながら貢献していく所存ですので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

人類の分岐点となる十年



広島県支部代表幹事 福馬啓人 昭和六十一年卒

昨年、複数の識者が「二〇二〇年から二〇三〇年までの十年間は、『人類の分岐点となる十年間』だ」と警告を發していました。まさか、年明け早々に「コロナウイルス」が、これだけ世界を混乱に陥れるとは思いませんでした。

地球温暖化、食糧や水の問題、そしてAIや生命工学など進化する難題に、これからの十年どう向き合っていくのか。それが人類にとって、大きな「分岐点」になるというのです。もしも対応を誤れば、世界は後戻りできない「ディストピア（ユートピア（理想郷）の正反対の社会）」となってしまいかもしれない。

さて、我々の範疇でこれを考えてみれば、土木技術者として、また、一社会人としてどうあるべきか。土木技術者として忘れてはならないのは、平成七年の「阪神淡路大震災」の際、「土木学会長・地盤工学会長・日本都市計画学会長 共同緊急声明」として發出された決意の中で、とりわけ、「われわれが想定外という言葉を使うとき、専門家としての言い訳や弁解であってはならない。」の言葉だと思ひます。この十年で、過去になり規模の災害等がおきるといえるような仕事をしておきたいと思ひます。

また、一社会人としてどうあるべきか。経済は大停滞し、突然、明日の生活に困る人達が出てきています。ところが建設会社にいる私にとつて、実はある意味他人事なのです。建設現場は、ほぼ変わりなく仕事を続け、同じ給料をもらい、心苦しい限りですが、でも、感染拡大を防ぐため、自身の衛生管理・自粛協力、外食産業が生き残りかけた弁当の購入、小さなことではありますが、社会への還元を心砕いていきます。

そうした一人一人の心掛けが、この十年を切り開くと信じて。

私の歩んできた土木



関東建設会 船田哲人 昭和六十三年卒

土木との出会いは、言うまでもなく三十六年前に立命館大学理工学部土木工学科に入学したことに始まります。今思えば「何故土木だったのか？」と問ひかけたことは多々あったような気がします。

それからの四年間で土木の魅力に氣付いたのか就職先にゼネコンを選んだのです。というところで、昭和六十三年四月から不動産建設株式会社（現在は株式会社不動テトラ）にお世話になることになり、私は本格的に土木の道を歩んでいく事になりました。

現在の私は、令和元年四月から土木事業本部技術部の技術部長という責任ある立場に着かせて頂いておりますが、これは入社してから三十年を越える沢山の経験と諸先輩方の指導の賜物と思っております。中でも私にとつて最も大きなポイントとは山岳トンネルとの出会いであり、入社二年目に着任した水力発電所の下部ダム工事での仮排水路トンネルがその始まりでした。今思えば無我夢中で休むことなく走り抜けた記憶しかありませんが、貫通時の達成感や造るの明り工事、シールド工事等の経験を経て平成十年に再び山岳トンネルに出会うことになりました。さすがにその時はそれなりの技術者になっていたのでしよう。当時のトンネル屋と言われる諸先輩方のご指導はもちろん、自身も真剣にトンネルと向き合ったことが評価されたのか東京本社からのお誘いがありました。当然のごとく「行かせて頂きます」と返答し、当時三十六歳の私は大阪人の魂を捨てることなく家族帯同で東京本社で第二の土木の道を歩み始めました。

東京本社では、営業プロジェクトに対する提案や施工現場への支援が主体であり、現場経験が活かされた時であれば、もがき苦しんだ記憶があります。ただ私の心を動かしたことがあったのです。それは技術士（建設部門・トンネル）への挑戦でした。本社着任後、当然のように外部の協会活動も業務の一つでありました。土木学会や日本トンネル技術協会の委員会やワーキングの中には優秀な技術者がいるわけであるように技術士であるという事です。これを機に久しぶりに勉強に励み二年かかり

近況報告



和歌山支部 牧野和之 平成十年卒

最後になりましたが、こんな私がこの原稿を書かせて頂いているのは、同じ会社の先輩でもある関東建設会会長の存在があり、大変感謝をしております。また、立命館大学建設会や支部団体の益々の発展と会員の皆様方のご多幸をお祈りいたします。

私は、びわこくさつキャンパス（BKCC）の開学の年に入学し、平成十年に土木工学科を卒業しました。入学当時はまだ南草津駅が供用しておらず、周辺は農地も多かったように思いますが、卒業するころには、学生用のマンションやコンビニ等が増え、その風景も大きく変化してました。最初のころは都会育ちでもない私が生意気にも「めっちゃ田舎やな」と言っていたのを思い出しますが、その後には学生の活気とともにかなり発展していると思ひます。

私は卒業後、和歌山市役所に勤務し、早いもので二十二年が経過しました。これまで下水道、道路行政に携わり、平成二十八年度からは都市計画の業務を行っております。人口減少、少子高齢化の時代に多くの地方都市は、人口の誘引、

コンパクトシティ等の施策に取り組んでいると思ひますが、和歌山市もその都市のひとつです。

郊外では、時代の流れに乗って大規模な商業施設が立地し、近隣都市への人口流出を防ぐために行った市街化調整区域の開発基準の緩和により、住宅地の拡散が進んでいました。一方、市の中心部となるまちなかでは、大学の郊外移転や百貨店などの商業施設の撤退により、かつて活気のあった商店街がシャッター街となり、周辺の建物が壊された後はすぐにコインパーキングが設置されるといふ悪循環により、衰退の一途を辿っていました。

これらの状況に對するため、コンパクトシティの施策の一環として、平成二十七年に市街化調整区域の開発基準の厳格化に踏み切りました。一度緩和した基準を厳格化することは、事業者などからの抵抗が大きく、いろんな意見の対応に四苦八苦したようです。まちなかでは、特に進んでいた人口減少への対応と併せて教育環境の向上を図るため、三小学校と一中学校を再編し、平成二十九年に九年制の義務教育学校（小中一貫校）が開校しました。廃校となった小中学校跡は、卒業後も本市で活躍できる専門性の高い大学の誘致を行い、二大学（看護学部、教育学部）が既に開校し、さらに来年度には薬学部の大学が開校予定です。学生がすべて揃うと千人以上の若者がまちなかを行き交うこととなります。広大な敷地のBKCCと比較はできませんが、まちなかにしか公的不動産を活用した大学誘致は、まちなか再生へ重要な契機と考えています。その他にも、再開発事業やリノベーションまちづくり等、民間事業者との連携した施策も合わせて取り組んでおり、少しずつ人口回帰の兆しが見えつつある状況です。

私は、コンパクトシティの計画である立地適正化計画の策定に携わりましたが、居住機能や医療・福祉・商業、公共交通等の都市機能の誘導を行うこの制度について

は、関連する分野が多岐にわたり、関係部局や地域の方への説明にかなり苦勞しました。人口減少が避けられない時代になり、将来に向けた都市課題に今から真剣に取り組むことの重要性を改めて感じています。

着任の挨拶



建築都市デザイン
学科 准教授
阿部 俊彦

この春より、建築都市デザイン学科(都市空間デザイン研究室)に着任いたしました、阿部俊彦と申します。

都市デザイン、都市計画、建築設計を専門とし、地方都市中心市街地の活性化、密集市街地の住環境整備、事前復興及び復興まちづくり等の研究を行ってきました。また、住民参加のデザイン手法を用いて、まちづくりのアクションリサーチによる実践的研究に取り組んでまいりました。

私は東京で生まれ、二〇〇〇年に早稲田大学理工学部建築学科を卒業後、二〇〇二年に同大学院理工学研究科修士課程を修了いたしました。在学中は、佐藤滋教授(現・名誉教授)のもとで、現場主義をモットーとした参加のまちづくりについて学びました。

二〇〇四年から、現代計画研究所大阪の江川直樹所長(現・関西大学教授)のもとで、建築設計と都市デザインの修行をさせて頂きました。そこでは、阪神淡路大震災の復興住宅、UR都市機構浜甲子園団地の再生、彩都国際文化公園都市のニュータウンの設計などに携わりました。その後、まちづ

くりコンサルタントに転職し、富田駅南地区や大阪市内の街並み形成等の調査業務に関わりました。二〇〇八年に東京に戻り、住まい・まちづくりデザインワークショップ一級建築士事務所を設立しました。同時に、早稲田大学と工学院大学の非常勤講師として学生の演習及び研究の指導をしつつ、早稲田大学都市・地域研究所の研究員として、現場のまちづくりプロジェクトを担当してきました。その例として、①中野区の密集市街地の防災まちづくり、②新宿区の復興模範訓練及び事前復興まちづくり、③鳥取市の中心市街地活性化まちづくり、④岩手県雫石町の地域資源を活用した環境共生デザイン、⑤奈良県長谷寺門前町の景観まちづくり及び空き家活用など、市街地から農村地域まで、様々な都市デザインのプロジェクトに携わりました。

二〇一一年に発生した東日本大震災以降は、津波被災地の宮城県気仙沼市の中心市街地の復興支援に力を入れてきました。その例として、①復興まちづくり協議会及びまちづくり会社のコーディネート及び専門家チームの統括、②海とまちの連続性を確保するためのウォーターフロントの景観デザインと、防潮堤一体型建築の設計、③共同化による買取型災害公営住宅と地域コミュニティ拠点併設した復興住宅の企画及び設計などが挙げられます。これらの実績を評価して頂き、日本都市計画学会計画設計賞、日本建築学会作品選集入選、都市住宅学会賞、これからの建築士賞、グッドデザイン賞等を受賞いたしました。それらの復興プロジェクトを対象としたアクションリサーチを通じて、小規模多主体連鎖による市街地整備の方法を、復興・防災まちづくり及び事前復興に生かすための理論と実践をまとめ、早稲田大学にて博士(工学)学位を取得しました。なお、本論文により、日本都市計画学会論文奨励賞を受賞いたしました。

都市の縮小時代を迎え、コロナ

禍などにより、人々の生活と社会が大きく変わりつつある中で、これまでの都市計画のフレームを超え、建築・都市・地域のスケールを横断する相互デザインにより、市民・行政・専門家など、多主体の協働による社会デザインとの融合による都市空間デザインのあり方を探究していく必要があると考えております。

この度は、立命館大学に就任させて頂き、採用に関わられた先生方から感謝いたします。今後は、立命館大学の教職員の皆様と連携し、新しい社会に対応できる学生を育てるためにデザイン教育と研究に専念し、社会に貢献できるよう日々努めて参りますので、よろしく御願い申し上げます。

立命館大学技術士会からのお知らせ

- ★同窓の技術士および技術士資格にチャレンジされる方は、当会へご連絡ください。
- ①技術士ネットワークの拡大と同窓・後輩支援としての情報を発信しています。
- ②技術士資格挑戦者への受験対策支援を実施中！奮って参加ください。
- ★当技術士の活動に、ご協力いただくためにも技術士資格取得者の方々には、当会に技術士資格情報をお知らせ願いたいと思います。(当会への入会は問いません。)
- ★平成 29 年から会員相互の交流の一環として会報誌をリニューアルし、会員相互のコミュニケーションツールとして、また会員技術士の論文発表の場として活用しています。
- ★当技術士の目的に賛同いただき入会をご希望の方は、ご連絡をお待ちしております。みなさんと一緒に、技術者の地位向上と社会への貢献に微力ながら前進させたいと願っております。

令和 2 年 (2020) 年 6 月 立命館大学技術士会幹事会
事務局連絡先：企画・窓口担当 E-Mail : rits.kikaku.mado@gmail.com
技術士会ホームページ (http://alumni.ritsumeijp/gijutsusikai/)

第 20 回 立命館大学建設会総会・懇親会延期のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、今年秋に予定しておりました第 20 回建設会総会・懇親会の開催は、次年度に延期させていただくこととなりました。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

なお、これにともないご審議いただく事項(会則の一部改正)が生じて参りましたので、書面による臨時総会の開催を役員会でお認めいただきました。臨時総会に関しましては、次頁【建設会臨時総会(書面審議)のお知らせ】をご参照下さい。

一日も早い事態の沈静化と感染された方々のご回復、そして皆様のご安全を心よりお祈り申し上げます。

事務局より

お知らせ

■会員登録データ

建設会会員名簿を隔年発行しておりますが、そのもとになるデータベースは、皆様からのお申し出に応じて適宜更新しております。このデータベースは、年会報の送付、総会などの各種案内、また、各支部からの連絡、会費請求の事務などに利用しております。

今回送付致しました年会報に同封されている「会員登録データ」をご確認いただき、修正や変更等がございましたら 8 月末までに建設会事務局までご連絡下さい。

また、今年 12 月初旬に「2020 会員名簿 [CD-R 版]」を発行予定です。名簿は、会費を納入いただいている会員を対象に送付させていただきます(2 年に 1 度の発行ですので、2019 年度・2020 年度分の会費納入者、ならびに終身会員に送付させていただきます)。

▶名簿お取扱いについて

名簿は、会員の皆様の大切な個人情報に掲載しております。名簿をお持ちの会員様は、その保管およびお取扱いには十分ご注意くださいようお願い致します(転売厳禁)。

なお、ご不要になった名簿につきましては、お手数ですが焼却あるいはシュレッダー処分をしていただけますようお願い致します。

なお、2019 年度分の会費をまだお納めでない方は、同封の振込用紙にて 2 年分の会費(6,000 円)を納入いただきますと、発行と同時に名簿をお送り致します。

■建設会年会費ご納入のお願い

立命館大学建設会は皆様の年会費で運営されています。

2020 年度会費のご納入をお願い致します(年会費：3,000 円)。

銀行からのお振込も可能です(ゆうちょ銀行 109(イチゼロキユウ)支店、当座 0000884)。お振込の際、お手数ですがお名前の前に 10 桁の会員コードをご記入いただくか、お名前・会員コード・お振込日を下記アドレスまでご連絡下さい(振込手数料は申し訳ございませんが、ご負担願います)。

建設会事務局

〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1
立命館大学理工学部都市システム系事務室内(担当:山元)
TEL: 077-561-4911 FAX: 077-561-2667

https://ritsumeij-kensetsukai.net
E-mail: kenstkai@st.ritsumeij.ac.jp
会費払込郵便振替口座: 02 大阪 01080-1-884

※なお、8月9日~16日まで、大学一斉休暇となります。何とぞご了承下さい。

建設会臨時総会（書面審議）のお知らせ

建設会の皆様には、日頃より厚いご支援を頂戴し、誠にありがとうございます。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、秋に予定しておりました建設会総会・懇親会を次年度に延期させていただきます。これにともない、下記についてご審議いただく必要が生じてまいりましたので、書面による臨時総会の開催を役員会でお認めいただきました。

つきましては、下記の事項についてお認めいただきたく、ここに臨時総会としてお諮り致します。お認めいただけましたら、本内容は次年度に延期して開催予定の第20回建設会総会で追認とさせていただきます。ご異論等がございましたら9月30日（水）までに建設会事務局までご連絡いただきますようお願い致します。ご意見等ございましたら、お認めいただけましたものとさせていただきます。

なお、臨時総会の審議結果に関しましては建設会ホームページでご報告致します。

記

【第1号議案】原則2年に1回の総会開催を延期した場合、これにともなう役員改選が行えず会則と齟齬が生じることから、会則の一部改正を行うこととする。

会則の一部改正

現行	改正（案）
第3章 役員 第8条 (6) 役員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。	第3章 役員 第8条 (6) 役員の任期は <u>原則</u> 2年とする。ただし、再任を妨げない。

以上

立命館大学建設会事務局
〒525-877草津市野路東1-1-1
立命館大学理工学部都市システム系事務室内
Tel:077-561-4911 Fax:077-561-2667
E-mail:kenstkai@st.ritsume.ac.jp